



平成25年5月8日(水)～6月15日(土)

9:30～17:30

休館日：日曜日・祝日

入場無料



テネシー・ウィリアムズの劇世界

— 渴望のきらめきの中に —

共立女子大学 神田一ツ橋キャンパス 本館1階展示室

東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線
「神保町」駅下車A8出口から徒歩1分

東京メトロ東西線
「竹橋」駅下車1b出口から徒歩3分

東京都千代田区一ツ橋2-2-1
TEL 03-3237-2435

テネシー・ウィリアムズの劇世界

— 渴望のきらめきの中に —

共立女子大学文芸学部劇芸術研究室には、多くの劇団や劇場から寄贈を受けたポスターやプログラムが、数多く所蔵されています。中でも故藤木宏幸先生が収集なさった新劇資料は、高い価値を持つもので、当時の主催者さえ所有していないものも存在します。こうした資料は保存が大変なのですが、卒業生の文芸 OG ネットワークの皆さんが毎週のように集まって整理をしてくださっています。研究に利用されることが期待されることです。

今回はその中から、テネシー・ウィリアムズの作品に関わる資料を、展示することにいたしました。これも文芸 OG ネットワークの方々のご意見と協力によって実現したものです。

テネシー・ウィリアムズは、現代アメリカ演劇の巨人と呼ばれる劇作家です。ミシシッピ州コロンバスに生まれ、7歳の時、セールスマンであった父の仕事の関係で、セント・ルイスに移住、さまざまな大学を転々としながら、やがて劇作に手を染めます。

内向的な姉との生活は、彼の作品に影響を与え、多くの作品のヒロインの姿に反映して繊細な人物像を生み出しました。傷つきやすく、しかしきらめきを持つヒロインは、魅力にあふれています。

『ガラスの動物園』『欲望という名の電車』『バラの刺青』『やけたトタン屋根の上の猫』などの作品は、世界各地で上演され、あるいは映画化されました。ヴィヴィアン・リー、エリザベス・テイラー、マーロン・ブランドの姿などを思い浮かべることのできる方も多いでしょう。

もちろん日本での上演も数多く、新劇の重要なレパートリーです。文学座の杉村春子の演じた『欲望という名の電車』のブランチは、日本演劇界の傑作とも評される程です。

偉大な劇作家テネシー・ウィリアムズの劇世界を紹介いたしたいと思います。



プログラム『欲望という名の電車』(初演、1953年、文学座)



ポスター『ガラスの動物園』(初演、1950年、ピカデリー実験劇場)